

## 情報社会を生きる②

↳ メディア・リテラシー ↳

菅谷 明子

### 今日の内容

メディア社会で生きるために

### 今日の手順

- 一 教科書 P.132 「情報社会を生きる」メディア・リテラシー」をじっくり読み、味わう。
- 二 文章の13の形式段落を四段構成に分ける。  
(教科書に印をつける。) **前回の確認です。**
- 三 教科書の内容をふまえて、
  - ① 「メディアの特性」を明らかにする。
  - ② ①をふまえて、私たちが今後、どのように生活していかなければならないか、自分の意見を書く。

以上、三つの手順で行っていきます。

それでは始めてください。

【五月二十日（水）「情報社会を生きる」② ノート例】

5/20（水） 二時間目

P.132～

情報社会を生きる

～メディア・リテラシー～

菅谷 明子

四段落の確認

P.132～P.135L17行を表します。

- 第一段落 形式段落①～③ (P.132L1～P.133L2)
- 第一段落 形式段落④～⑥ (P.133L3～P.134L4)
- 第一段落 形式段落⑦～⑫ (P.134L5～P.135L14)
- 第一段落 形式段落⑬ (P.135L15～P.135L17)

意見文を書く

私たちが今後、どのように生活していかなければならないか。

自分の意見を書く。

条件1 「メディアの特性」を明らかにすること。

条件2 条件1をふまえて、私たちが今後、どのように生活していかなければならないか、自分の意見を書くこと。

例)

技術革新により、情報社会の進展が加速していく中、その情報はメディアによって大きく左右されていることがある。臨場感をもって伝わってくる情報はまさに実体験を味わっているかのような錯覚を覚える。疑似体験ができる貴重な経験は私たちの価値観の形成に大きく影響するものである。一方で、メディアの情報は、送り手の意図が反映されており、全体の情報の一部にしか過ぎないことも事実である。

メディアが伝える情報を、私たちは正しく取捨選択していく必要がある、自分に合った情報だけではなく、全体をとらえた情報として得ていく必要がある。そのためにも、毎日の生活の中で、情報のメリット、デメリットを考え、情報に左右されるのではなく、前向きに社会を創っていく力をつけていく必要がある。